# 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」

* https://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf
* 平成26年3月
* 国土交通省観光庁

## 2. 多言語での表記方法

### b. 英語の表記方法 ローマ字の扱い

英語表記において、下記に[ヘボン式ローマ字](#ヘボン式ローマ字)の表記方法を示す。

#### ヘボン式ローマ字

[ヘボン式、表](ヘボン式ローマ字.csv)

#### 備考

1. はねる音「ン」はnで表すが、m、b、pの前ではmを用いることができる。
2. はねる音を表nと次にくる母音字又はyとを切り離す必要がある場合には、 次に「-」（ハイフン）を入れる。
3. つまる音は、次にくる最初の子音字を重ねて表すが、次にchがつづく場合にはcを重ねずにtを用いる。
4. 長音は母音字の上に「－」（長音符標）をつけて表すことができる。
   * 長音が大文字の場合は母音字を並べることができる。
   * （注）長音符号は日本独自のもので、国際化されていないため、外国人に理解されない可能性もある。長音符号の使用は事業者や自治体等で対応が異なる、もしくは使用しない場合があるため表示にあたっては確認が必要。
5. 特殊音の書き表し方は自由とする。
6. 文の書きはじめ並びに固有名詞は語頭を大文字で書く。なお、固有名詞以外の名詞の語頭を大文字で書くこともできる。
7. 意味のかたまりや発音のしやすさ等の観点から、複数の名詞等で構成される固有名詞やoが重なる場合等は、その間に「-」（ハイフン）を入れることができる。